向方のお潔祭り（一月三日）

（午後二時頃）

① 氏子総代の家からお上りが出発

② 御はまおり（宮人達がお滝で身体をきよめる）

③ 上宮での祭りが始る

1 献　供

2 御はらい

3 御天狗祭り（舞の神の祭り）

④ 祭りは下宮（舞堂）へと移される

1 御かまどはらい（かまどをきよめ滝の水を入れる）

2 下宮天狗祭り（ガヤ、栗の実、トコロの根を供える）

3 うちはやし（うたぐらでお湯立）

4 御神酒びらき（全員で御神酒をいただく）

5 神正儀（ボテンの下で、きんしよう神正儀のうたぐらを唄う神下しの行事）

6 いちん舞（舞の初り、通称おんな舞を一人で舞う）

7 宮ならし（順の舞を宮人代表が舞う）

（午後六時半頃）

8 花のやうとめの舞（四人で花笠、湯桶、扇、鈴を持って八折の舞）

9 うぶすなのやうとめの舞（四人で舞う）

上着を持って二折　上着を着て二折

扇子を持って二折　扇子を開いて二折

10 清めの湯立（祢宜と宮人代表できよめる）

（午後七時三十分頃）

11 ゆばやしの舞（四人舞で次の三つがある）

一、扇の手　上着を着扇と鈴で舞う（二十分）

二、ヤチゴ　つるぎの前の身がための舞でタスキを掛け木刀と鈴で舞う（四十分）

三、つるぎ　タスキを掛け刃止めのしてない剣を持って舞う（四十分）

12 うぶすなの湯立（廿四釜の湯ならびにならいだくせん）

13 ゆばやしの舞（四人舞で扇の手、ヤチゴ、つるぎ）

14 四ツ舞

二の方諏訪大社の湯立

（午前零時頃）

15 ゆばやしの舞（舞の中でも拍子の早い三人舞で四ツ舞と同じく次の三ツがある）

三ツ舞

一、扇の手（十分）

二、ヤチゴ（四十五分）

三、つるぎ（四十五分）

16 三方大神の湯立（浅間之湯）

（午前二時頃）

17 かいどうくだり（爺、ばばがかいどうくだりでモドキとのもんどうの後に十二月の餅をつく）

（午前三時頃）

18 せきどのの湯立

19 古傳の舞（二人舞で家を継ぐ者が舞うとされている）

一、タスキを持って四ざしき

二、タスキをこぐりて四ざしき

三、タスキを掛けひしやくを持って四ざしき

四、顔を洗って四ざしき

五、弓を持って四ざしき

20 おうそうの湯立

21 きりちがいの舞（四人で幣束を持って舞う）

22 しめの御王へあげ湯（お湯立とともに、しめ縄、幣束を集める）

（午前五時頃）

23 よなぶね（しめ縄、幣束を鳥居の所へ運びおさめる）

24 下道ばらい（祢宜がつるぎで九字を切る）

25 火ぶせの舞（いろりの火を床の上に出し火の中で順之舞を舞う）

坂部の冬祭り（一月四日）

四日午後六時

① 下の森（火王社）からお練りが出発

② 宿入れ（伊勢音頭、願人両りを堂庭で踊る）

③ 通常の祭典が始ります

1 献　供（御供物を供える）

2 浦安の舞（扇の舞　矛の舞）

3 釜洗い（湯立の釜をきよめる）

4 注連引（おしめ縄の歌をうたう）

5 御供渡し（供物のうたぐら）

6 順の舞

7 天狗の祭

8 大庭酒（全員で食事と御神酒をいただく）

（午後九時半頃となる）

9 申し上げ（神子が祭の始りを申し上げる）

10 湯　祓（湯立の湯を浄める）

11 花の舞（湯雛子の舞として行なわれる少年たちの舞で次の八つがある）

1 上衣　2 花笠　3 やちこ　4 湯桶

5 大根　6 餅　7 花　8 花通し

（午後十二時頃となる）

12 大神宮の御湯（最初の湯立である）

13 火の大神の舞と湯立（これからの舞とは本舞のことで青年の舞として上衣、やちこ、剣、ぬき身の四つである）

14 神楽大神の舞と湯立

15 津島大神の舞と湯立

（午前三時頃終る）

16 切替え（申し上げ）

17 面形迎え（下の森に面をとりに行く）

18 湯　祓

（この頃が五日の午前四時頃となる）

19 東方浅間神社の舞と湯立（途中がつたくの舞）

20 諏訪神社の舞と湯立

（五日午前六時頃）

21 たいきり面の舞（面形の舞）

祭りのクライマックスに入る

22 獅子舞

23 鬼神面の舞

24 天公鬼面の舞

25 小公鬼面の舞（青公鬼）

（五日午前八時頃）

26 水王様（しづめ様）

この時の湯をかけられた見物衆は御利益があるとされている

27 火王様（再び湯が煮えたぎる）

28 公羽面（祢宜との問答が面白い）

29 日月、女郎面の舞（てらぼこ）

非常に面白い踊りである

（五日午前九時頃となる）

30 海道下り

31 魚釣り

32 餅投げ

33 朝　食（みそ汁と御飯）

34 八坂神社の湯立（本舞がある）

35 面形送り（下の森に行く）

（五日午前十時頃である）

36 神妻神社の湯立

37 止　湯

38 火伏せ

池大神社祭典（一月五日）

1 お登り（塩祓い幡・神輿・祠掌・屋台太鼓・締太鼓（十余名〝岡崎〟祇園ばやし）花と行列を組み宿（氏子総代宅）から神社へ向う（一時出発））

2 拝殿にて祭式（開扉・供饌・祝詞・玉串奉奠あと下宮・舞殿へ移る）

3 宮移の儀（九字を切り湯釜を浄める（二時三十分頃））

4 神下しの儀（榊に向いうたぐらを唄い神を下ろす）

5 順の舞（宮人の全員が一人づつ順に舞う扇と鈴をもつ（三時頃より））

6 みるめ（切拓きの神）の湯立（祢宜が鈴と湯木を持ちうたぐらをうたいながら舞う）

7 お清よめの行事（次に笹の葉と柄杓をもち湯を持ち舞殿から拝殿、本殿から鳥居まで潔める）

8 扇の三つ舞（扇を持ち三人で舞う　太鼓と笛のはやし（四時頃より））

9 おぶすな（池大神）の湯立

10 生まれっ子（希望者があったとき神の子（宮人）にしてもらう　生まれ清まれの儀式をする）

11 剣の三つ舞（刀を持ち三人で舞う（五時頃））

12 天照皇大神の湯立（六時十五分頃）

13 みかぐらの御神酒（中休みする）

14 扇の四つ舞（扇を左鈴を右に持って四人で舞う（六時四十分頃））

15 願舞（ヤチゴマの舞）（立願の人の希望により次のうちひとつを舞う（扇の舞　ヤチゴマの舞　幣を持って舞う四つ舞　順の舞））

16 富士浅間の湯立

17 一旗の湯（祢宜、宮人が湯木をもって願人の名をよみあげて湯立をする立願の者の願済し（午前一時頃））

18 剣の四つ舞（刀を持って四人で舞う（午前一時三十分頃））

19 諏訪明神の湯立（二時）

20 鎮めの舞（刀を持ち一人で舞う）

21 龍王の湯（鎮の湯　三時頃より（釜の周りを笹の葉のたばねたのを持ってまわる。うたぐらが多い。この湯をのむと年中丈夫だという。四方のたから（幣）を焼く））

22 神洗い（四時頃より（神様がおかえりの後いろりを囲んで神酒をのむ））